

(4)-1 市町村経常経費分析表(普通会計決算)

平成26年度

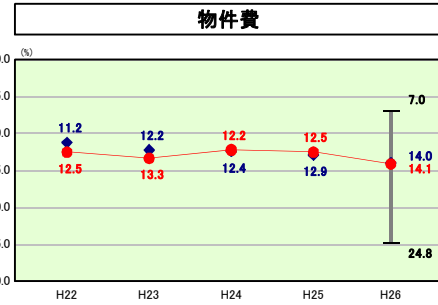
北海道幌延町

経常収支比率の分析

人口	2,501人	(H27.1.1現在)	実質赤字比率	-%
うち日本人	2,478人	(H27.1.1現在)	連結実質赤字比率	-%
面積	574.10	km ²	実質公債費比率	12.7%
歳入総額	5,423,688	千円	将来負担比率	-%
歳出総額	5,257,361	千円	市町村類型	H22 I-O H23 I-O H24 I-O
実質収支	162,453	千円	(年度毎)	H25 I-O H26 I-O
標準財政規模	2,999,819	千円		
地方債現在高	4,867,069	千円		

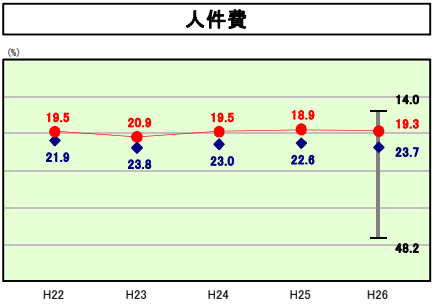
● 当該団体値
◆ 類似団体内平均値
T 類似団体内の最大値及び最小値

※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。



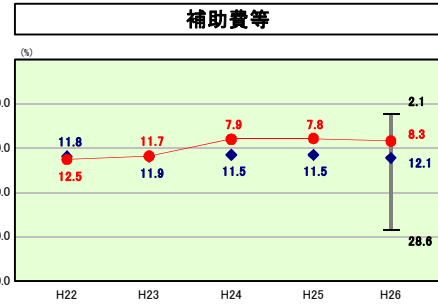
物件費の分析欄

類似団体と同程度の数値であるが、今後も必要最小限の管理経費等を見極め経費節減に努める。



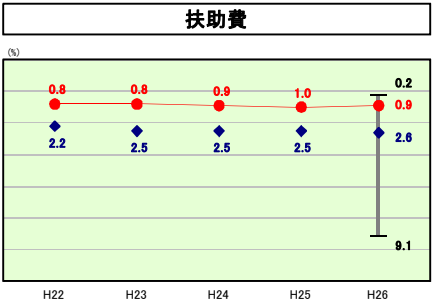
人件費の分析欄

定員管理の適正化により、人件費に充当される経常一般財源は類似団体平均値を下回る状況にある。しかし、近年の職員大量採用に伴う昇給等による数値悪化が想定されることから、引き続き職員適正化配置等により適切な水準の維持向上に努める。



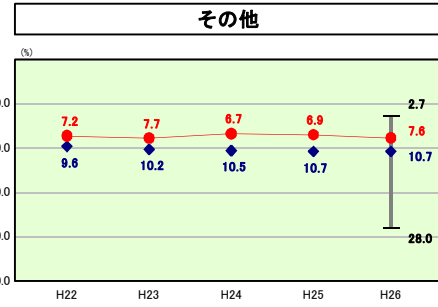
補助費等の分析欄

平成23年10月以降、町立病院の診療所化により補助費等の経常経費が削減され改善されている。今後も類似団体を下回る数値になるよう引き続き歳出の見直しに努める。



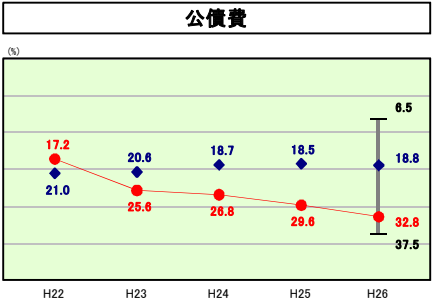
扶助費の分析欄

全般的に福祉施策支援対象者が少ないことが類似団体平均値を下回る要因と思われる。しかし、町内に障害者施設があることから、居住地特例制度の見直しがあった場合には、数値悪化が懸念される。



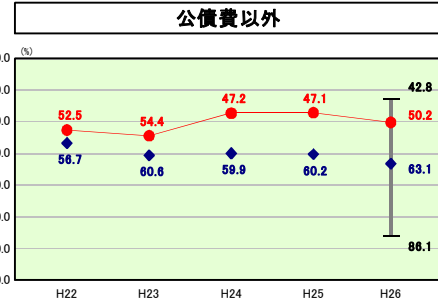
その他の分析欄

積雪地域特有の除雪経費については、各年の降雪量に左右されることから、降雪状況により大幅な増減が想定される。



公債費の分析欄

平成23年度以降、大型の建設事業実施に係る地方債の元金償還が始まった。また、平成22年度に借入れた地方債の償還が平成27年度に完了することから、平成27年度が公債費のピークと見込んでいる。しかしこれは、意図的に償還年数を圧縮したものであり、交付税算入となる有利な地方債が多く占めることにより、経常一般財源が確保できるため、それほど懸念すべき状況ではないと思われる。



公債費以外の分析欄

公債費が類似団体平均値を大きく上回るが、人件費、扶助費、補助費等及びその他については、類似団体平均値を下回る数値にある。しかし、今後において普通交付税の交付額によって数値が大きく変動することから、引き続き徹底した経常経費の見直しを図る。